

## 2020 年度 第1回定例会記録

日時:2020 年9月 15 日(火)13:30~15:30

会場:上野原会館

出席者:内田・柏原・木俣・高坂・小谷・小山・杉本・田頭・瀧本・長森・林・藤崎・安田・安永、

Zoom:佐藤・佐野・坂井、市役所(山口係長・鳴海)、オブザーバー/Zoom:プレック研究所

進行:林 書記:長森

### ■環境市民会議の人事(役員体制)と第三次基本計画における環境市民会議の立ち位置について

下記の意見等が出された。

- ・第三次環境基本計画策定のスケジュールより、10 月中旬までに市民会議の方向性を決める必要がある。今までどおりか、強化策を講じるか、解散するか、NPO と一体化を考えるか・・・。
- ・三役はこのままで来期は出来ないと考えている。市民会議の活動についても部会活動だけで良いのだろうか。
- ・マンパワーの問題が最大で、会員のパワーが衰退している。
- ・三事業をやっていたときは、環境政策課や市内の環境団体との協働・意思疎通がとれていたが、返上後はそれがなくなってしまった。また環境政策課の人事異動で、それ以前の関係が希薄になっていった。
- ・NPO がスターとしたときから、環境市民会議と、環境政策課と、NPO 環境ネットワークの協働体制の役割分担が曖昧なまま現在まで推移している。
- ・市民参加は大きい可能性を持っている。協働についてのコミュニケーションを深めて、新しい人の参加を実現し、良い方向に持って行きたい。
- ・市の考え方、方向性が見えない。市のサポートが弱くなっている。
- ・ビジョンでは行政・事業者・市民の協働の場であるはずが、市民だけになっている。
- ・三事業を NPO 環境ネットワークに移して、市から丸投げ？ 市民会議には期待していない？ 第 3 次基本計画で市は、市民会議に何を期待しているのか？ 「協働」は何を考えているのか？
- ・まだ可能性を信じている。他の団体とのつながりを進める場はこしかなない。
- ・一人一人の個人や団体の活動が認められるように、市がもっとサポートする環境市民会議とすべき。今の会議ベースである必要は無いのではないか？
- ・教育機関、事業者との連携など含め、他の人を動員できるシステムを作るべきだ。
- ・小金井市の条例には市との関係が不明瞭なところもあったが、第一期は大学も協力してフォーラムなどを行ってきた。地域での学習などに大学などの知識を使って欲しい。
- ・行政と一緒に取り組める、可能性のある会議だ。
- ・行政はもう少し前面に出るべきではないか？
- ・事務局機能で、行政はもっと前面に出て欲しい。
- ・第 2 次基本計画で記載がなくなった財源問題も、第3次基本計画に盛り込むべきではないか。
- ・市は、協働のあり方を考えて欲しい。条例にある行政が「支援するものとする」の中味を具体的に示して欲しい。
- ・このままの状態、環境市民会議は継続できるのか？
- ・市の取組み姿勢を示してもらおうのが出発点ではないか。我々の SOS のサインは十分出してきた。行政は何も答えてこなかった。

⇒環境市民会議との協働のあり方について、市に検討をいただくとともに、代表・副代表が市と話し合い、今後の在り方について方向性を詰め、再度早急に会員に諮るものとしたい。

以上